

梅干しへの支出

- 家計調査（二人以上の世帯）結果より -

6月を迎え、梅雨の季節になりました。皆さんは6月6日が「梅の日」^(注)ということをご存じでしょうか。食べ物が腐りやすくなる時期に、抗菌・防腐作用のある梅干しは重宝されます。そこで今回は、梅干しへの支出について家計調査結果からみてみましょう。

(注)今から460年ほど前、日本中が日照りに苦しんでいた中、時の天皇が6月6日に賀茂神社に詣で、梅を奉納して祈ったところ天恵の雨がもたらされたという故事にちなんで、「紀州梅の会」が2006年に制定し、日本記念日協会に認定されています。

6月に増える梅干しの購入数量

1世帯当たりの梅干しの購入数量を月別（平成19～21年平均）にみると、6月の購入数量が最も多く、1か月当たり平均購入数量の約1.5倍となっています。次いで7月、5月、8月の順に多く、梅干しは夏場に多く購入されていることがわかります（図1）。

梅干しの購入数量が多い70歳以上の世帯

次に、1世帯当たりの梅干しの年間購入数量（平成19～21年平均）を世帯主の年齢階級別にみると、年齢が高くなるほど多くなり、70歳以上の世帯が最も多くなっています。また、1人当たりの梅干しの購入数量も、年齢が高くなるほど多くなり、70歳以上の世帯が最も多くなっています（図2）。

年間購入数量の1位は和歌山市

最後に、1世帯当たりの梅干しの年間購入数量（平成19年～21年平均）を都道府県庁所在市別にみると、和歌山市が2,058gと最も多く、全国平均（793g）の約2.6倍になっており、次いで青森市（1,453g）札幌市（1,214g）となっています（図3）。

このように、家計調査では、世帯主の属性や地域性による購入数量の違いも把握することができます。

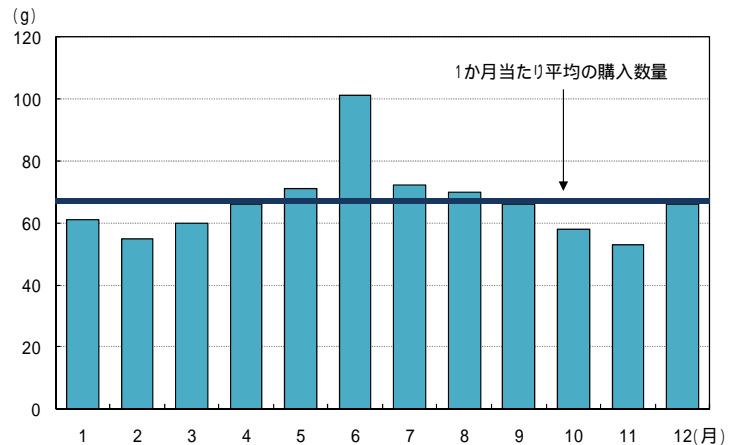


図1 梅干しの月別購入数量(平成19～21年平均)

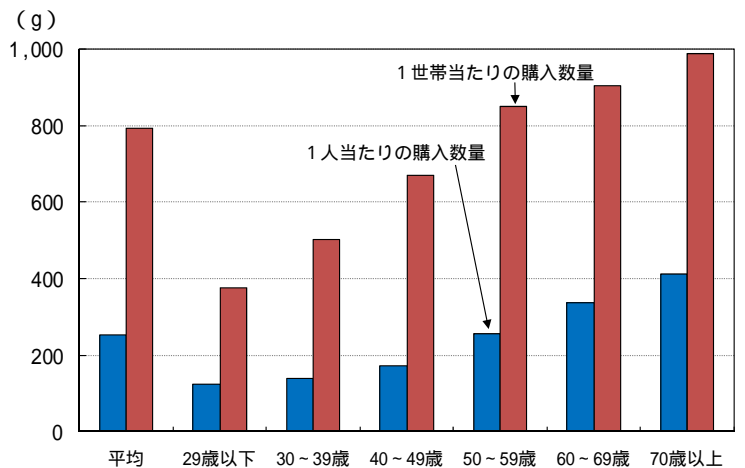


図2 梅干しの世帯主の年齢階級別年間購入数量(平成19～21年平均)

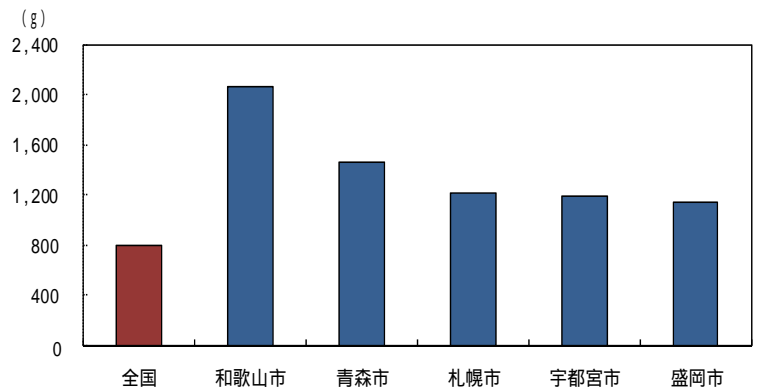


図3 梅干しの1世帯当たり年間購入数量の都道府県庁所在別ランキング(平成19～21年平均、川崎市及び北九州市を含む)